



サンガスタジアム *by KYOCERA*

合同会社

指定管理者

ビック&サンガ



サンガスタジアム *by KYOCERA*

京都府立京都スタジアム（京都府亀岡市）

2020年1月に開業した
令和初の複合型フットボールスタジアム
(観客収容:21,600人)

京都駅から電車で約20分、JR亀岡駅前

指定管理者：合同会社ビバ&サンガ
(株)ビバ(代表)と(株)京都パープルサンガによる
特定目的会社(SPC)

※契約期間は約10年(～2030年3月)

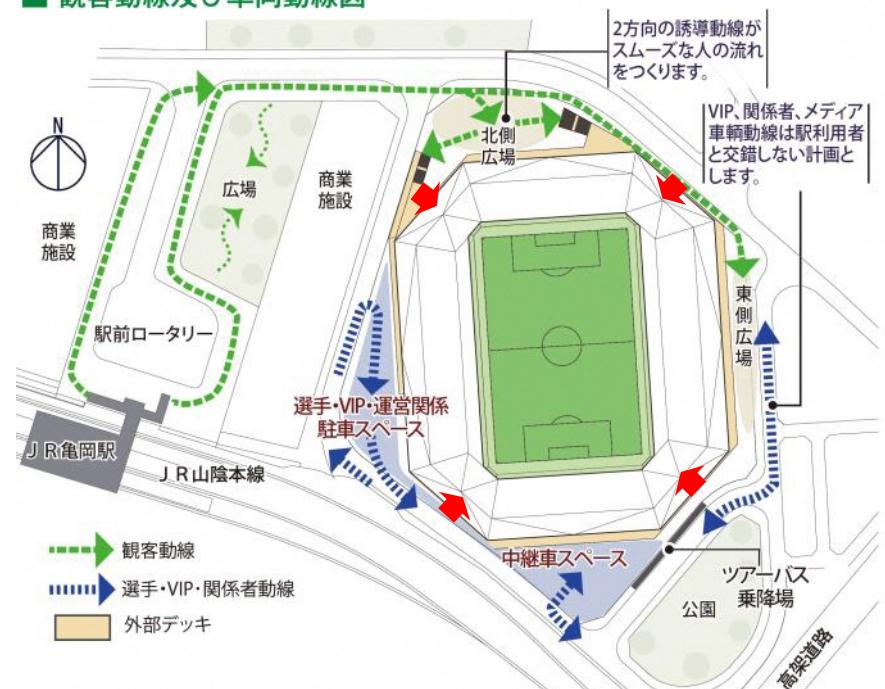


敷地は、亀岡盆地を形成する山々を背景に北側を流れる保津川と、南側を走るJR嵯峨野線に挟まれた、街区開発が進行中のJR亀岡駅北土地区画整理事業の商業エリアの駅前に位置します。

本スタジアムは、スポーツ庁、経済産業省が掲げるスタジアム・アリーナ改革の先駆けであり、民間活力を生かしたにぎわいを創出する新しい“まちなか・えきちかスタジアム”として整備されました。

限られた敷地形状に合わせたコンパクト化により、すべてのステークホルダーが喜びを享受できる最高のスタジアムとすることを目指しました。

■ 観客動線及び車両動線図



にぎわいの創出 都市公園型スタジアムからの脱却と収益性向上

これまでのスタジアムは、国体開催に向けて整備されたものが多く、都市公園内に整備することで、建設費を交付金でまかない建設されてきました。

そのため、公園施設としての公共性、開放性の確保という観点から、建築面積制限の他、民間企業による出店や過度な収益への制限がかかり、自由な運営ができないという問題がありました。

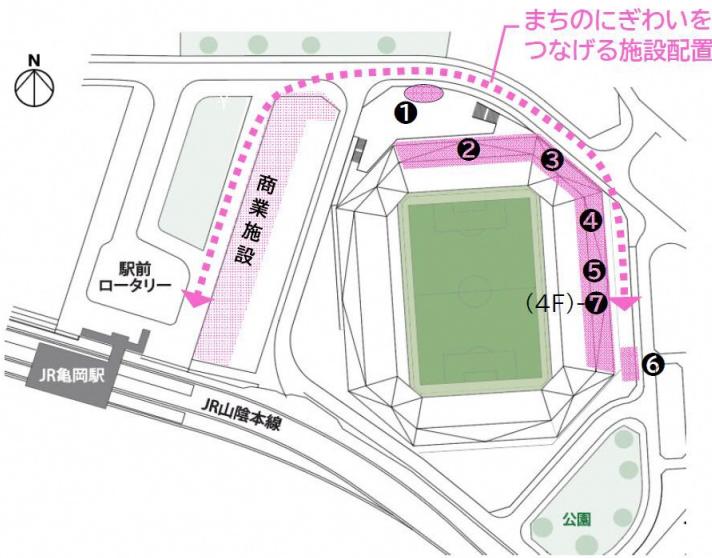


このスタジアムは、JR亀岡駅前の商業エリアに建設されることから、都市公園に建つスタジアムのような制限もなく、にぎわい創出施設についても自由度を高めた提案と整備が求められました。

そこで我々は、北サイドから東側のバックスタンドの1階に、テナントが入居できる店舗エリアを外向きに配置し、日常的に気軽に立ち寄れる活気あふれる沿道空間をデザインしました。



にぎわいの創出 日常的にまちのにぎわいをつくる地域の拠点となる施設を目指して



②フードコート

地元グルメが楽しめる5店舗が営業。キッズコーナーも併設しており、試合時はもちろん、平日でも地域住民や観光客でにぎわっている。



①足湯

スタジアムと調和する地場産杉ルーバーに包まれた、誰でも利用できる足湯。



③企業主導型保育園



天然芝ピッチが園庭となる、スタジアム全体を遊び場として活用した保育園。スタジアムと地域コミュニティのコア施設との相乗効果を生み出している。

にぎわいの創出 日常的にまちのにぎわいをつくる地域の拠点となる施設を目指して



④木育ひろば(KIRI no KO)

亀岡市が開設、民間が運営する、木のぬくもりを感じながら体をおもいっきり動かすことができる屋内こども遊び場。特に休日は家族連れでにぎわっている。



⑤クライミング施設

スポーツ3種目(リード・スピード・ボルダリング)とキッズウォールを有する国際基準のクライミング施設。民間(好日山荘)が運営している。沿道や外部デッキからガラス越しにリードウォール全景が見える配置とし、にぎわいあふれる沿道空間をつくっている。



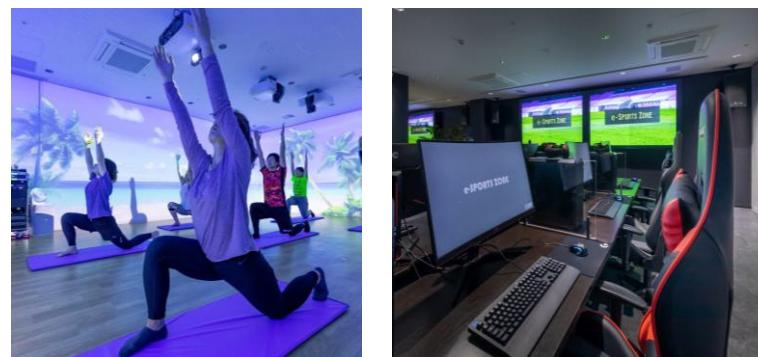
⑥3×3コート

事前予約で無料利用できる。地域の子どもたちや地元チームなどの利用のほか、体験教室なども開催している。



⑦VR/e-sports/コワーキング施設(4F)

スタジアムとは動線分離した4階に配置。VRを駆使したフィットネスゾーンやフィールドや保津川の風景を望むコワーキングスペースなどを有する。





最先端のスタジアムを活用した
ビジネスアイディアを大募集！



亀岡市 × サンガスタジアム by KYOCERA

皆さまの実証事業を全力でサポートします。

採択事業者は、サンガスタジアムby KYOCERAの

様々な施設・設備の活用、また最大150万円の補助金の活用、

各種調整支援等を受けることが可能です。



THEME

01

スタジアムの集客力強化や、スタジアムをフックにして周辺地域に誘客することに繋がるような実証事業



THEME

02

デジタル・テクノロジー領域で、スタジアムの新しい活用方法を検証・ビジネス化にチャレンジする実証事業

